



TITLE:

支部欄 (日食特輯號)

AUTHOR(S):

CITATION:

支部欄 (日食特輯號). 天界 1936, 16(182): 340-341

ISSUE DATE:

1936-05-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167229>

RIGHT:

支 部 欄

大 阪 支 部 報 告 (5月)

◆支部速報発行と4月19日、5月3日の合同ハイキング

4月13日附にて4月19日の京星會・大阪天文研究會と協會本部・京阪兩支部との第3回合同ハイキングの案内が速報され、當日何れも決行され前者に就いては「天界」181號274頁に、後者は「銀河」第14號に何れも記事あり。

◆支部委員吉岡哲夫氏の訃

同好會創立時よりの會員で當時の大阪支部の設立者の一人、現在も熱心な後援を寄せて居られた同氏は去る4月21日自宅にて逝去さる。哀惜に耐えず、同23日日本キリスト教北教會にて告別式ありて、百濟支部長宮森副支部長會葬さる。

◆支部委員笹部榮一氏の送別會

熱心な支部委員、大阪天文研究會黃道光課長たる同氏は上海に榮轉された、支部員と研究會員中の有志にて4月24日20時より心齋橋森永にて送別會を開く出席者7名あり。

◆支部報第7號の發行

5月1日附にて新裝の支部報用紙4枚第1頁會告欄、2—4頁談話室「火星に於ける倫理學」(評論)・「二見浦夫婦岩の日出」の研究・「カペラ君を送る」の文・「小笠原諸島に天文旅行中の大口氏よりの通信文」で賑ひ、増々内容充實す。本號より130部を印刷、100部は市内特別にて發送され、協會員で無くとも熱心な天文アマチュアにも配布される故、未入會の方々を御紹介して下さいに申添えます。

◆支部5月例會の開催

5月9日19時より Y. M. C. A. にて開催、出席者21名、遠く東京會員1名と京都會員2名を迎えた。出席者も毎回新顔を迎え愈々盛會となるのは悦ばしい。開會の辭、自己紹介、續いて前回例會よりの懸案たる大阪に於ける日食・天文の講習會・展覽會開催に就き出席者の隔意なき討議の結果、成案立ち、愈々實現も目前に控える、席上本支部地方委員として坂元左馬太・西川英男・

河合孝一諸氏推舉され、本部の高城氏により發表された、支部發展策も審議され、22時一先づ閉會、同所屋上の觀望會に移り廣野氏の15糧、西森氏の8糧反射經緯臺で天體美觀を恣にし23時散會す。

大 阪 支 部 6 月 例 會

1. 日 時 6月21日(日)18時より
1. 會 場 心齋橋筋2丁目をぐらや2階
日食座談會 (花山觀測隊の電報報告、日食寫眞發表等)例により遠近より御出席して下さい。

京都支部・京星會だより (4月)

さくら、櫻の4月おちこちを埋める櫻は灰色の冬に凍てついた世界を蘇らせ彩づける。『名をもたぬ京の櫻はなかりけり』京洛はまさに名櫻畫譜を繰り擴げた如く、人々は花に浮れ京の町は櫻に明け櫻に暮れる。夕空の星は乳色の春霞に抱かれ靜かに微睡む様である。

○四月觀望例會 會員の會合と天文知識の啓發、一般人士の天文知識の普及を計るための觀望會は本年度は毎偶數月中旬開かれる事になつてゐる。4月の觀望例會は18日(土)夜二條公園に於て催される豫定で10日その案内狀が發送せられたが不幸當日は曇天で雨さへまぢり觀望不能に終つたでも熱心な數名の會員は附近の幹事宅に落合ひ春の夜を天文談に花を咲かせ心ゆくまで楽しんだ。

○春季合同ハイキング 昨春京星會と天文研究會の合同によつて初められた京阪合同ハイキングの第3回は天界に發表せられた通り、協會京都大阪兩支部を加へ大阪側が當番となり19日(日)17名の参加者によつて攝津の野に賑やかに催された(詳細は天界5月號)

○新會員募集運動 京都市の全同好者が結び合つて共に趣味を楽しみ研究を深める事を理想として創立以來2年、本會もようよう會員60名を數へる團體となり京都の協會員の過半數を占める處となつた。協會京都支部の名をもちその名に背かない正式活潑な活動を計るために京都の協會員諸氏總ての入會を希望し、中旬その拶揆狀、趣意書、會則及び會誌『京星』等印刷物を封入未